

〈英語〉

自己表現力を育成する授業の工夫 — 書く表現活動を通して（第2学年） —

宜野湾市立真志喜中学校教諭 大 城 千 春

I テーマ設定の理由

グローバル化が急速に進む今日、21世紀を担う児童、生徒が、将来基本的な表現を使ったコミュニケーション能力を身につけることは、重要な課題である。文部科学省が平成26年に発表した「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」の中で、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学習到達度目標の設定が求められている。また、「中学校学習指導要領解説外国語編」（以下「解説外国語編」）においては、「言語を使用して、互いの考え方や気持ちを伝え合うなどの活動の中で、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること」としている。

本校の平成26年度沖縄県学力到達度調査（英語）において、全体の平均正答率は、50.3%と県の平均を1.6ポイント上回っているのに対し、be動詞や助動詞の使用などの文構造を問う設問においては、県平均に比べて、13ポイント下回り、課題が見られる。授業において、教師がモデル文を提示し、英作文に取り組ませる課題では、文構造のミスはあまり目立たない。しかし、テーマだけを与え、自由に英作文を書かせると、初歩的な文構造のミスが増える。授業のまとめで行っている「授業振り返りシート」での1行英作文においても、「be動詞の選択ミス」や、「一般動詞のミス」等、全体の3分の1の生徒が同じようなミスを繰り返している。

自分自身のこれまでの授業実践を振り返ってみると、文型や教科書の内容指導に時間を費やすあまり、生徒が自分の考えや気持ちを自由に話したり書いたりする場面設定の時間が十分でなかったと考える。その時間を設定した際にも、英語を使ってペアで表現することができたという積極的な態度に重きをおき評価していた。授業のまとめは、各自の振り返りカード記入や家庭学習での復習になることが多く、その結果、文の構造理解が不十分な生徒への一歩踏み込んだ対策が不十分であったと思われる。

授業では、生徒達は、ペアで取り組ませると英語を使って表現し、対話しようとする意欲がある。話す活動においては、間違いを恐れず、自分の気持ちや考えを瞬時に伝えることが優先される場面が多い。しかし、書く場面においては、生徒自身が、日本語とは違う英語特有の語順や構造の違いに、より注意を向け、正確に文の構造について理解しようとする態度を身につけることも重要である。そのためには、教師の指摘だけではなく、生徒自らが互いに点検しあうチェック機能を高めたい。それにより、書く活動においても、積極的な態度や意欲も高まるのではないかと考える。授業や英作文テスト等で、繰り返し正しい文構造と語順をインプットすることで、より正確な文の定着が図られると考える。

そこで本研究では、書くことにおける自己表現力を、「自分の考えや気持ちを正しい文構造で、相手に伝えることができる力」とし、個人活動やペア・グループ活動を通して、自己表現力を育成する。4月から行っているモジュールでのインタビューや単語テストで語彙力、話す意欲を高めさせながら、正しく英文を書く力を身につけさせたい。生徒が取り組みやすいテーマを与え、英文を正確に1行書くことができる課題から始め、最終的には、文構造を正しく3行書くことができるように導きたい。生徒の意欲を高めるために、教科書の内容に加え、生徒が実際に起こりうる言語場面における「書く活動」とし、題材を工夫する。書く活動を始める前に、生徒に対して、読み手が誰であるのか、その読み手に何を伝え、どういう表現だと読み手が分かりやすいのかということを考えさせ、それを意識した書く課題に取り組ませる。書く目的を明確にしたテーマで、生徒同士が互いの文や表現を工夫しながら友達や好きな有名人の紹介等、生徒が好きな分野を読み手に紹介し、意見のやり取りや、感想をもらう等のコミュニケーション活動を通して、生徒が自分の意見や考えを英語で書いて伝えることの楽しさを味わってほしいと考える。

〈研究仮説〉

中学2年生の英作文において、授業者は、生徒が興味を持つテーマを設定し課題に取り組ませる。生徒同士が主体的に正しい文構造を理解し合うためのチェック活動を行うことで、生徒は、自分の考えや気持ちを正しい文構造で書いて相手に伝える力が身につくであろう。

Ⅱ 研究内容

1 英語科における自己表現力について

「解説外国語編」において「書くこと」については、「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。」としている。また、本研究では、書くことにおける自己表現力を、「自分の考えや気持ちを正しい文構造で、相手に伝えることができる力」とした。授業のモジュール活動で、語彙や基本表現の定着を図りながら、生徒に、読み手を意識させた場面における「書く活動」を行う。また、繰り返し正しい文構造と語順をインプットすることで、より正確な文の定着を図られると考える。基本文（基本表現）をしっかりと長期的な記憶としてインプットさせるための活動も取り入れたい。

2 正しい文構造について

生徒によく見られる間違いは、主に次のような例があげられる。主語の欠如、be 動詞の選択、可算名詞の複数形、3 人称における動詞の変形、動詞の時制や倒置法（疑問文の作り方）などである。上記の原因と考えられることは、日本語と英語の表現における認識の違いが挙げられる。語順の違いや、主語や助動詞の存在感の違い、また、英語は数をはっきりさせないと気がすまない言語であること、などがそれに当てはまる。柳瀬和明（2014）は、「英語は、日本語に比べて、とくに、語順が非常に厳格である。日本語では、助詞の働きにより、語順の自由度が高いが、英語では語順が、文の意味を決定づける。」と述べている。日本語では、主語や目的語が大きく省略されても、意味が伝わり、問題にならないことが多いが、英語の場合、主語や目的語が欠如すると、話が分からなくなってしまう。英語では数に対しても、単数であれば、名詞に a や an をつける。複数であれば、複数形に直すという作業が必要である。同様に、現在形の場合、3 人称の主語になると、動詞に e または es をつけなければならない。その文型ごとに機会を見つけて生徒に説明はしているが、今回の検証では最初に、生徒に日本語と英語の文に対する認識や文の違いを例文で説明してから、授業を行いたい。

今回、検証する英作文の授業における基本となるキーワードを、「正しく書こう」とする。簡単な表現で正しく書くということを意識させながら、生徒に課題を取り組ませる。短作文を書く際のルールを最初で一斉に確認する（表 1）。表中の 4 点に絞って、正しく簡単な表現を使って書く、という指導を行う。書く内容については、2 学年の内容に加え、1 学年で習った表現を活用し、ワークシートで生徒に説明を行う。また、1 行作文の点検については、「Today's Can Do シート」を活用する。

「Today's Can Do シート」は、本時のねらいが達成できたかを自己評価させるシートである。シートには、本時のめあてを毎時間記入させ、「今日の 1 文テスト」の欄を設けている。授業の最後に、本時の基本文テストを行い、生徒が理解できたか確認する。毎時回収し、教師で点検、添削を行う。

3 記憶の三段階

言語習得の段階として、第 1 にインプット段階、第 2 にインテイク段階、第 3 にアウトプット段階がある。英語を使う場面が実際に少ない生徒においては、十分に英語に触れさせるという第 1 のインプットが大切である。アウトプットにおいては、簡単な挨拶や質問から始まり、自分の意見や考えを伝える段階に進む。これまでの自身の授業では、インプット終了後、すぐに生徒にアウトプットを課題にする授業が多かった。しかし、いつまでも初歩的なミスがなくならないため、教師の添削指導だけではなく、生徒自身が、文の誤りに気づくよう指導していかなければならない。生徒が英文の正しい文構造を身につけるためには、インテイク段階の活動に十分な時間をとる必要があると考える。齋藤榮二（2011）は、「インテイク段階とは、言語を脳に沈めることである。文を脳に沈めるとは、文を覚えさせるということではなく、文の法則性を生徒の中に育てること」と説明している。インテイクとは、たくさんの単語や英文に触れさせるインプットの段階とは異なり、同じ基本文を繰り返し音読し、書くことで培われる英語の文に対する法則性を取り入れる段階である（図 1）。生徒が、正しい文の法則性を身につけ、それを長期的な記憶にするための継続した取り組みが必要である。

表 1 短作文を書く際のルール

(1) 分かりやすい簡単な表現で書くこと

例：主語＋動詞＋補語

主語＋動詞＋目的語 等

(2) 主語の人称による動詞の語形の違いに注意して書くこと

(3) 時制（現在の事なのか、過去の事なのか等）に注意して書くこと

(4) 書く内容が、単数か、または複数についての話なのか、数に気をつけること

4 正しい文構造を長期記憶に沈めるために

生徒が、英文を間違える理由は、正しい文構造が、記憶の中にきちんと定着していないことが、原因である、と考える。タルヴィング（2007）は「五感で体験した内容が、言語・イメージ・シンボルなどの情報に変換され、記憶に組み込まれることで、記憶は長期記憶になる。とくに、言語を長期記憶にするためには、視覚または聴覚を使って、毎日使わせることである。」としている。

特に、英語を母国語とせず、英語を話す環境にない学習者にとっては、教室でのインプットが重要になる。しかし、十分な量がインプットされても、繰り返して話したり、書いたりする場面が少ないと、あやふやな記憶、間違った表現のまま、アウトプットが繰り返されてしまう。このことから生徒に基本文を繰り返し音読せることで、生徒が正しい文構造を長期記憶に沈めることができる、と考える。生徒が間違った文や表現に触れた際に、正しい文構造の法則性を思い出し、正しい文構造で書く力を身につけるために、インテイク・リーディング活動を取り入れることが有効である、と考える。語彙については、毎時間行う単語テストにて確認し、授業の初めに行うインテイク・リーディング活動での定着を図る。インテイク・リーディング活動とは、ペアで音読し、互いが正しい文構造での音読ができているかをチェックする活動である。そのため、インテイク・リーディング活動の前に、教科書の本文や基本文を生徒が声に出して読むことができている状態にしておくこと、それぞれの文の意味を理解できている状態にしておくことが必要である。授業の最初の10分間をモジュールとし、毎時間繰り返しインテイク・リーディングを行っていく。それを継続していくことで、生徒が正しい英文の構造を理解し、生徒が互いに間違いに気づき、正しい表現を教え合うチェック機能を高めたいと考える。生徒が初めての活動に親しみを持ち、意欲的に参加するために、活動名を「シェアハピ・リーディング」とし、取り組みを行う。

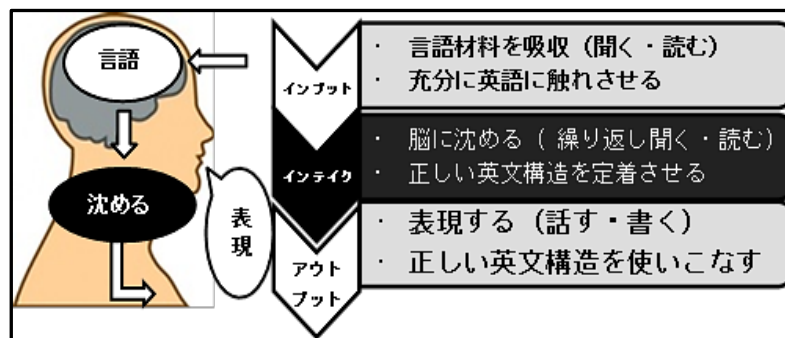


図1 言語習得の3段階

5 英作文の指導

(1) 書く活動における場面設定の工夫

生徒が語と語のつながりに注意し、まとまった文を書くためには、それを支える言語材料についての理解や定着のための練習が必要である。「解説外国語編」において、コミュニケーション能力を育成するために「生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるにより、生徒が自ら興味をもって言語活動を行ったり、英語で発信したりすることが、より一層充実して行われることが期待される。」と述べられている。コミュニケーション能力を育成するには、生徒が聞いたり読んだりした内容について、それを理解するだけでなく、自分なりの感想や意見を持つことが大切である。書くことを通して、自分の考えや気持ちを文構造が正しい英文で、相手に伝えることができる力を身につけなければならない。また、横山・大塚（2013）は、「中学生が学習を効果的に進めるには、繰り返しと印象深く学習することが大切である。表現したいと思った時に、与えられる語彙や文法表現の情報は記憶されやすい。この活動が授業で学んだ語彙、文法、発音、定型表現を実際に使える状態にしてくれる可能性が高いだろう。」と述べている。教師は書く活動を始める前に、生徒に対して、読み手が誰であるのか、その読み手に何を伝え、どういう表現だと読み手が分かりやすいのかということを考えさせ、それを意識した活動であることを理解させて課題に取り組ませる。授業の中で、分からない語や表現がある場合には、積極的に教科書や辞書を使用するよう促し、難しい単語や表現は、読み手に分かりやすい簡潔な表現に書きかえるよう指導する。教師のフィードバックだけでなく、生徒同士が互いの文や表現を工夫しながら友達や好きな有名人の紹介等、生徒が好きな分野を読み手に紹介し、意見のやり取りや、感想をもらう等のコミュニケーション活動を通して、生徒が自分の意見や考えを英語で書いて伝えることの楽しさを味わってほしいと考える。

今回の単元で、生徒は「オーストラリア先住民の暮らしや文化」について学習する。パワーポイントのスライドで、オーストラリアの概要や、アナンダグ人の文化を紹介し、単元の導入を行う。オーストラリアの国や文化についてのクイズやペア学習を入れながら、生徒が興味関心を引く活動を

取り入れる工夫をしていきたい。

(2) 段階的な書く指導

「解説外国語編」において、「文法については、コミュニケーションを支えるものとらえ、コミュニケーションを実際に行う言語活動と効果的に関連付けて指導することが、重要であること」としている。第2学年における「書くこと」の言語活動では、「書こうとすることを整理して、大事なことを落とさないように書くこと」としている。和田稔(1990)は、「書こうとすることを整理する」手順について、①話そうとすることを決めて、その内容を考える。②伝えたい内容に必要な語、句、文を集める。その際、必要なことだけ取捨選択する。③取捨選択したものを、伝えたい順番に並べ替える。」と述べている。実際の授業では、生徒に紹介する人物を決めさせ、どの部分を紹介したいのかを選択させる。生徒に英文を書かせる前に、教師が、参考になる例文をいくつか提示し、苦手意識がある生徒も無理なく取り組めるよう配慮する。とくに、文構造の定着が不十分な生徒についてはワークシート記述の確認を個別に行い指導する。また、書くペースが速い生徒については、辞書や教科書を使いながら、書いた英文の内容をさらに深め、別の表現の方法を見つける等、3行以上のまとまりのある文に挑戦するよう指導する。個人で書いた後、ペア同士で互いの表現が分かりやすいかなどの意見交換を行う取り組みをさせる。書く目的を明確にしたテーマで、3行程度の作文を正確に書くことができる活動にする。検証では、好きな有名人の紹介をする。生徒が英語を用いて自分の考えや気持ちを正しい文構造で書いて相手に伝える楽しさを感じる単元としたい(図2)。

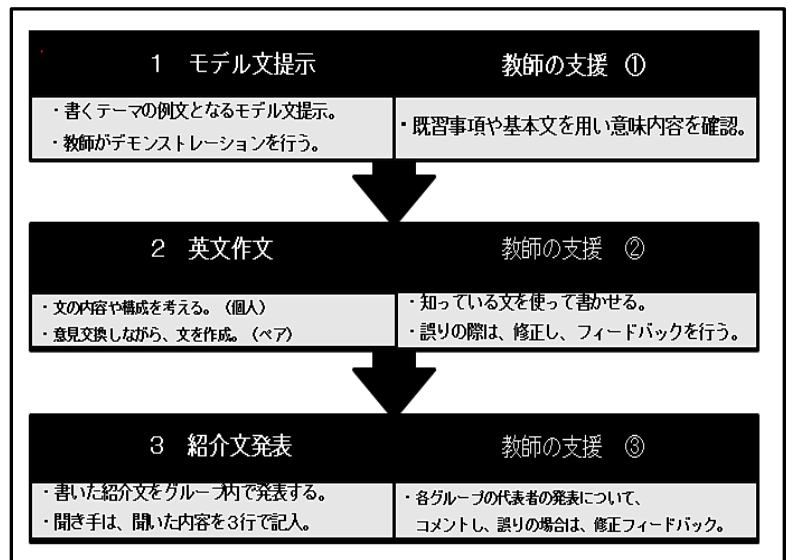


図2 段階的な書く指導のプロセス

Ⅲ 指導の実際

- 1 単元名 NEW CROWN BOOK ENGLISH SERIES 2 LESSON 6 Uluru
- 2 単元目標 (1)旅の楽しさと地域文化を尊重することについて考える。
(2)動詞(give)+A+B,動詞(lookなど)+Aを理解する。
(3)観光地について意見文を読む。
(4)好きな有名人について紹介文を書く。

3 評価規準

a コミュニケーションへの関心・意欲・態度	b 外国語表現の能力	c 外国語理解の能力	d 言語や文化についての知識・理解
・間違いを恐れることなく、積極的に自分の好きな有名人や友人を紹介することができる。	・好きな有名人の紹介文を3行で書くことができる。 ・グループで聞き取った紹介文を書くことができる。	・紹介文を聞いて、その内容を聞き取ることができる。	・旅の楽しさと、地域文化を尊重することについて考える。 ・オーストラリアに関心を持ち、先住民の存在について知る。

4 指導計画(全13時間)

※ Can-Do シートによる自己評価は毎時間行う。

	学習目標	学習内容	生徒の活動	a	b	c	d	【評価の観点及び評価方法】
1	オリエンテーション	・英語と日本語の違い説明 ・事前テスト	・ワークシートにて内容理解			○	○	【理解】【知・理】 ・ワークシート ・事前テスト
3	Lesson6-①	・give+A+Bの導入 give+A+Bを含む文を使った文を用い、自分の気持ちを表現することができる。	・シェアヒビ・リーディング① ・ペアワーク①ワークシート ・ペア発表		○			【表現】 ・ワークシート ・ペア発表・単語テスト ・Can Do シート自己評価

4	Lesson6-①	・オーストラリア Q&A ・内容理解 ・ p 6 6 の会話の内容を理解することができる。	・シェアハピ・リーディング② ・ペアワーク② ・パワーポイントクイズ ・ペア発表			○	○	【理解】【知・理】 ・ワークシート ・Can Do シート自己評価 ・単語・英作文テスト
5	Lesson6-②	・look+A を含む文を理解し書くことができる。	・シェアハピ・リーディング③ ・ペアワーク③ ・拡大写真を使った作文(ワークシートで確認)			○		【表現】 ・ワークシート ・Can Do シート自己評価 ・単語英作文テスト
6	Lesson6-②	・内容理解 ・ p 6 8 の本文の会話の内容を理解することができる。	・シェアハピ・リーディング④ ・ペアワーク④ ・ p 6 8 の本文の会話の内容を理解し、ペアで読む。			○	○	【理解】【知・理】 ・ワークシート ・Can Do シート自己評価 ・基本文を使って質問
7	Lesson Read	・内容理解 (ウルル・アナング人の文化/歴史についてパワーポイントで紹介する)	・シェアハピ・リーディング⑤ ・グループワーク ・ウルル・アナング人の文化/歴史について理解する。	○		○		【関・意・態】【理解】 ・クイズ発表 ・ワークシート ・Can Do シート自己評価 ・単語英作文テスト
8	Lesson Read	・内容理解 Q&A ・「ウルル」Ayers Rock と先住民の生活や歴史について理解することができる。	・シェアハピ・リーディング⑥ ・リスニング ・内容理解 ・ペアワーク⑤			○	○	【理解】【知・理】 ・教科書リスニング ・ワークシート ・Can Do シート自己評価 ・単語英作文テスト
9	USE WRITE①	・好きな有名人を紹介しよう① ・教師の好きな有名人の紹介	・シェアハピ・リーディング⑦ ・教師の好きな有名人 Q&A ・好きな有名人について下書きをする。	○	○			【関・意・態】【表現】 ・クイズ発表 ・ワークシート ・Can Do シート自己評価 ・単語英作文テスト
10	USE WRITE②	・好きな有名人を紹介しよう② ・好きな有名人について、グループで紹介する	・シェアハピ・リーディング⑧ ・ペアワーク⑥ ・好きな有名人について、グループで紹介	○	○			【関・意・態】【表現】 ・活動の観察・発表 ・Can Do シート自己評価 ・単語英作文テスト
11	Lesson 6 単元のまとめ	・単元のまとめ ・give A B, look A の文を理解することができる。 ・オーストラリアの先住民について理解することができる。	・シェアハピ・リーディング⑨ ・ノートブック p22-23 ・ワークシート ・ノートの単元のまとめのページで Lesson6 の内容を確認			○	○	【表現】【知・理】 ・Can Do シート自己評価 ・英作文テスト ・基本文を使って質問説明
12 本時	USE WRITE③	・好きな有名人について紹介することができる。 ・発表を聞いてレポートメモを書くことができる。	・シェアハピ・リーディング⑩ ・グループ活動 ・グループ内発表 ・グループ代表者発表	○	○			【関・意・態】【表現】 ・グループ内発表 ・ペア評価・グループ評価 ・Can Do シート自己評価 ・ワークシート
13	検証のまとめ 単元のまとめ	・事後テスト(検証後) ・事後アンケート(検証後)	・事後テスト ・事後アンケート			○	○	【理解】【知・理】 ・事後テスト・事後アンケートから生徒の実態と変容を分析する。

5 本時の学習指導 (12/13 時間目)

(1) 本時の目標

- ① 好きな有名人について、紹介文を書くことができる。
- ② 発表者の内容を聞いて、文章メモを取ることができる。

(2) 授業仮説

書く活動において、生徒が各自の好きな有名人について書いた内容を発表することで、意欲的に単語や文を調べ、作文をするであろう。

(3) 本時の評価

A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)
文法的なミスがなく、正しく 3 行書くことができる。	文法的なミスが 2 カ所以内あるが、3 行書くことができている。	文法的なミスが 3 カ所以上ある。3 行書くことができていない。

(4) 本時の展開

過程	指 導 過 程	生徒の学習活動	教師の主な支援・評価
導入 5 分	1 Greeting(挨拶) (1 分) 2 シェアハピ・リーディング(4 分) ①reading (1 人 1 分×2 人) ②reading の相互評価・自己評価	・元気に挨拶する。 day, date, weather を板書する。 ・ペアで音読・相互評価	・発話しやすい雰囲気作り ・生徒を机間指導で補助 ・活動の観察 ・シェアハピ・シート

展開 35分	3 Today's Can Do (本時の目標を確認) (2分) 「有名人について、正しい文構造で紹介文を書くことができる。」 4 発表手順の確認 (2分) 5 グループ発表 (20分) ①発表者ははっきりとした声で読んでいるか。 ②聞き手は発表内容を聞き主語や動詞に注意を払いながら、メモをとっているか。 6 各グループ代表者発表 (6分) 7 発表のまとめ (3分) 8 自己評価記入・回収 (2分)	・Today's Can Do シートに本時の目標を記入 「有名人について、正しい文構造で紹介文を書くことができる。」 ・発表順の決定 ・グループ発表 ①順番に発表を行う。 ②発表者は、写真や絵を見せながらはっきりとした声で紹介する。 聞き手は、ワークシートに発表メモを取りながら、レポート文を書く。 ・各グループ代表者を選出し、発表する。 ・発表のレポートのまとめ 互いに書いたレポート文の文を見直す - ワークシートの自己評価表に○をつけて、活動の振り返りを文章で記入する。	・本時の目標を明確にする。 【関心・態度】【表現】 ・Today's Can Do シート ・ワークシート ・活動の観察 教師は発表内容に対してのコメントを述べ、フィードバックを行う。 
まとめ 10分	9 Today's Can Do シート (今日の1文) 「こちらは、私の大好きなサッカー選手です。」 10 Today's Challenge シート回収 ・家庭学習の確認	Today's Challenge (今日の1文テスト) Today's Can Do シートに、教師が言う日本語を聞き、英文に直す。(1文) 「This is my favorite soccer player.」 ・ 本時の自己評価記入・提出 ・ 家庭学習の確認	【表現】 ・ Today's Can Do シート ①回収後、1人1人コメント記入し、単語や文の間違いに気づかせる。 ②正確な文を書くことができた生徒には、自信をもたせるようコメントを記入する。

6 仮説の検証

検証方法として、授業、アンケート、ワークシート、事前事後テストから分析を行う。

(1) シェアハピ・リーディング活動について

今回の検証では、ペアワークとして、インテイク・リーディングを取り入れた。活動名を「シェアハピ・リーディング」とし、授業開始後、挨拶や、本時のめあての記入後、ペアで音読し合うことにより、正しい文構造を理解するだけでなく、生徒同士のチェック機能を強化することもねらいであった。生徒1人1枚シェアハピ・リーディングシートを配布し、授業者は1分ずつ計り、パートナーが正確にリピートできたらチェック (○印) を記入させた。生徒Aがチェック係となり、シートに記載された文を順番に音読する。生徒Bは、シートを見ずに音声のみを聞き、そのまま正確にリピートする。生徒Aは、生徒Bが正確に1字1句読めているかを厳しくチェックし、言い違いがあれば、言い直させた (図3)。毎時間、授業のまとめの際に1文作文を行い、シェアハピ・リーディングシートから問題を出題した。シェアハピ・リーディングシートには、次時の書く活動の例となる文を5文、教科書の基本文から5文を取り入れた。この10文を繰り返しリーディングすることで、既習の文構造を再確認し、前時の復習、次時の予習になることがねらいであった。また、生徒が文全体を理解するために、日本語訳を書く欄を設け、リーディング前に各自教科書や辞書を使いながら、意味を調べ記入させた。

① シェアハピ・リーディング活動の相互評価

パートナーのシートにチェック (○印) して後、パートナーに対して活動様子の感想や激励の一言を記入させる相互評価を取り入れた (図4)。「Very good.」「Wonderful.」「Good job.」等英



図3 シェアハピ・リーディング活動

語を使った感想や、「今日はスラスラ読めていました。」「前回より上手に読むことが出来たね。」等ペア同士相手の活動の様子を振り返ることができた。また、生徒自身が自分のシートに、今日クリアした文の合計を数え、自分の活動の感想を記入させた。その中には、「初めてのペアだったけど、スラスラ読むことができた。」「最初の頃に比べてスラスラ読むことができるようになった。」「詰まってしまった文は繰り返し言うようにした。」等の感想があり、回数を重ねるに連れ楽しみながら意欲的に活動に取り組む姿勢が見られるようになった。

「今後の授業でも取り入れてほしい。」という声も多く、教科書等の基本文を取り入れた活動を継続して行えば、正確な文構造が定着すると考える。

事後アンケートから、シェアハピ・リーディングを行って、文を読むことや文を覚えることができるようになった。」に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が全体の77%であった(図5)。シェアハピ・リーディングの活動についての欄から、「ペアで活動して声に出すことで単語などを覚えることができた」「文法や単語をいつもより短期間で、覚えられた。」「最初は初めての活動で驚いたが、次第に、スラスラ文章を読むことができるようになった。」という感想があった。

また、「ペアやグループで学習すると、理解できる。」に対し、「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒が、検証前70%に対し、検証後は84%であった(図6)。「あまりそう思わない」と回答した16%については、「ペアが変わると恥ずかしいから」「緊張するから」といった感想があった。初めての取り組みに対し、発話の少ない生徒からの意見であったため、ペア作りの工夫、また、シェアハピ・リーディング活動を毎時間継続して行えば改善できると考える。

② 「Today's Can Do シート」の活用

今回、Lesson 6 の単元において、毎時の基本文の確認を「Today's Can Do シート」を活用して行い、本時のねらいが達成できたかを自己評価させた。「今日の1文テスト」では、本時の基本文についてのテストを行い、生徒が理解できたかを点検した。検証開始時は、過去形の変形ミスが目立ったが、指導を繰り返すにつれ、ミスがなくなった(図7)。

今回の検証では、シェアハピ・リーディング活動によって、生徒が互いにチェックし合い、正しい文構造を理解することが目的である。検証授業前に行った事前テストの中で、最も多かった文法の誤りの1つ可算名詞と動詞の人称での使い方に、改善が見られた。詳細については、次の書く活動における項目で述べる。

シェアハピ リーディング シート

2nd Class () No. () Name ()

クリアしたら○をつけよう！ 評価 A・10~6個 B・7~4個 C・3~1個 (○の数)

3週目 (ファイナル)

English	意味	12/20	12/22	12/24	12/26	合計
21 This is my favorite soccer player.	こちらは、私の大好きなサッカー選手です。	○	○	○	○	
22 She became a member of the national team when she was fifteen.	彼女は、15歳のときにナショナルチームの一員になった。	○	○	○	○	
23 I like her because she doesn't give up in any games.	私は、どんな試合でもあきらめない彼女の事が好きだ。	○	○	○	○	
24 I am a junior high school student in Singapore.	私は、シンガポールの中学生です。	○	○	○	○	
25 I will give him a letter.	私は、1日以内に手紙をあげるでしょう。	○	○	○	○	
26 Natsushi looks tired today.	夏菜は、今日ちょっと疲れている。	○	○	○	○	
27. Ms Yagi teaches us Japanese.	夏矢先生は、私たちに日本語を教えています。	○	○	○	○	
28 G... ..	ちねは、2人に尋ねる様子を覚えてくれた。	○	○	○	○	
29 H... ..	オーストラリアの国はどうだった？			○	○	
30 T... ..	原は、そのセッフルに詳しい数値を示している。			○	○	
	今日の得点 (スコア)	7	8	10	10	
	今日の評価 (A B C)	B	A	A	A	

相互評価 自己評価

ペアからのコメント (良かった点など) お互いに、キレイだった。

自分の感想 (良かった点など) スラスラと言えることができた。がんばるといって、やってみようとした。

千葉先生からのコメント 1回1回ごとにスムーズに読むことが出来るようになってきたね！

3週間シェアハピリーディングをしての感想 とても楽しくて、今後の学習にも役にたてたい。

VERY GOOD

図4 シェアハピ・リーディングシート

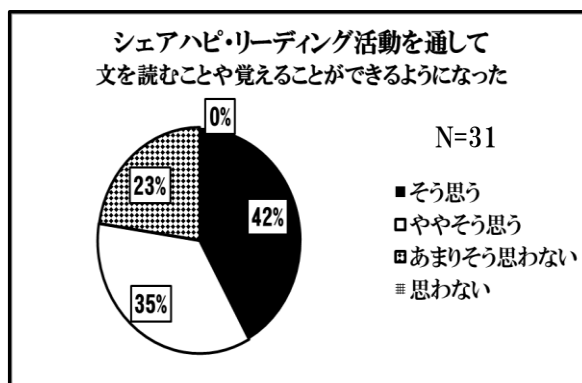


図5 シェアハピ・リーディング活動アンケート

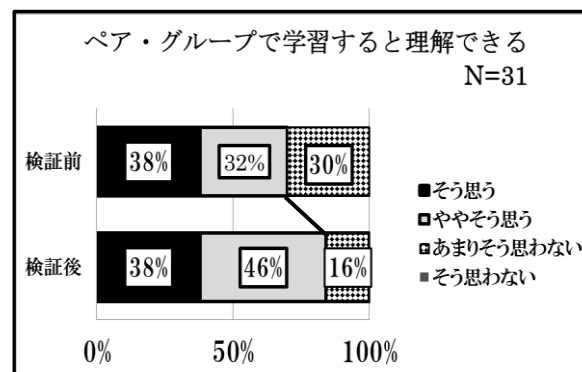


図6 ペア・グループ学習についてのアンケート

(2) 書く指導の実践

今回の検証では、生徒が取り組みやすいテーマを与え、英文を正確に1行書くことができる課題から始め、最終的に正しく3行書けるよう指導した。生徒は4月から、本時の基本文を理解しているかを確認するために、

「Today's Can Do シート」を活用している。

今回の検証では、シェアハピ・リーディングの中で、音読した文を授業の終わりに正確に1行書くことができるか、という作文から行った。

① 書くテーマの設定

検証前アンケートの「自分の伝えたいことを英語で書く学習が好きだ」の問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒が34%であった。事後アンケートで、48%と14ポイント上昇した(図8)。生徒が英文を書くことにおける楽しさを感じ、意欲的に書く取り組みにするために、書く活動における今回のテーマを「自分の好きな有名人の紹介文を書こう」と設定した。普段、生徒の対話に登場する好きな有名人をテーマにすることで、書く内容に対する知識や情報が収集しやすく、生徒同士コミュニケーションをとりながら、意欲的に作文に取り組むと考えたからである。

② 書く活動の導入

書く活動を始める前に、読み手がクラスメイトであること、自分の好きな有名人について伝えたい内容をきちんと選ぶこと、どういう表現だと読み手が分かりやすいか、ということを確認した。また、始めに教師が書く活動の導入として、最近話題のスポーツ選手やミュージシャンの紹介を行った(図9)。拡大写真やワークシート、板書で例文を与え、英作文に対し、苦手意識が強い生徒も書く手順を楽しめるよう配慮した。誰について紹介文を書くか、その写真や書く内容のイメージ作りは週末の課題とした。似顔絵を書いたり、有名人の情報をインターネットで調べたり、コラージュのように写真や言葉をスクラップにしたりと、生徒は、思い思い楽しそうに準備しイメージを事前に膨らませた様子が見られた。ワークシートで教師の好きなミュージシャンを紹介し、生徒が参考として使えそうな例文で導入した。書くときのルールとして、主語と動詞の使い方、時制を正しく使うことをワークシートで確認した。生徒は、スポーツ選手やミュージシャン、お笑い芸人だけではなく、戦国時代の武将や平安時代の作家等、幅広い層の有名人を紹介した(図10)。今回の有名人紹介の取り組みに対する事後アンケートからの声に、「自分の好きな有名人を紹介する課題だったので、楽しみながら、単語や文を調べることができた。」「人物を紹介することで、教科書にはない単語を調べながら、文法を再確認することができた。」という感想があった。

日頃の書く活動において、書いた文のフィードバックをもらう回数の少ない生徒達も、自分の好きな有名人の特徴を紹介する表現を工夫し、ペアやグループで相談したり、教師に質問をしたりしながら、積極的に書く活動に取り組むことができた。グループ内発表は、4人1組で行った。

ねらい	Give(あげる)/Show(見せる)/tell(話す)/teach(教える) + A + B の構文を理解し、使うことができる。 Look(見る)/taste(味がする)/feel(感じる) + A の構文を理解し、使うことができる。 旅の楽しさと地域文化を尊重することができる。	第4文型 (S+V+O+DO) Look + 形動詞
1 11月30日	Today's Can Do SVDOの口-口シートを解く。	読みが理解できた 話す・書く 先生からのアドバイス ヒョオ!!
2 12月7日	Today's Challenge give + 人 + もの ○○○○もあげてみよう!! I gave her a birth day present.	読みが理解できた 話す・書く 先生からのアドバイス She → 彼女 her → 彼女

図7 Today's Can Do シートでのフィードバック

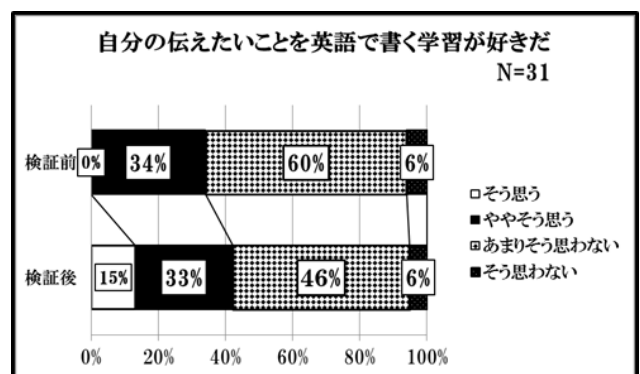


図8 自分の伝えたいことを英語で書く学習が好きだ



図9 教師のモデル文紹介(パワーポイント)

発表者は、自分が書いた文を紹介し、聞き手の3人は発表の内容を聞き、英語でレポートメモをとった。内容を聞きながら3行書き取る場合も、主語や動詞の時制、単数か複数かにも配慮するよう指示を与えた。グループ内発表後、各グループの代表者が自分の文を紹介し一斉に紹介文を確認した。

③ 書く活動における評価の観点

これまでの書く活動では、板書のみで評価方法を、説明していた。今回の取り組みでは、評価方法を活動スタート時、ワークシートに表記して、確認を行った(表2)。最初に、評価方法を示すことで、「正しい文構造で、英文を3行書く」という今回のテーマを意識させて、活動に取り組ませることがねらいだった。生徒の書く活動に対する自己評価も、同時に説明した。生徒には、ワークシート1回目に評価コメントを記入し、修正後正しく書き直させた。その結果、図10で示したように、1回目の紹介文に比べ、2回目の紹介では、ワークシートから動詞の3人称での語形の変化や、名詞の複数形におけるミスがなくなった

(3) 事前・事後テストからの分析

① 空所補充問題

主語によって、be 動詞を選択する問題の平均正答率は事前テストが76%、それに対し、事後テストでは84%と8ポイント上昇した。事前テストにて、be 動詞の選択問題はクリアできたていたが、現在進行形「He () playing the piano now.」の問いに対し、過去形の was を選択した生徒が20%だった。これは、文末の now という語に注意を向けず、答えを選択したからだと思われる。また、一般動詞を記入する問題においては、平均正答率は、事前テストが64%事後テストでは70%と6ポイント上昇した(図11)。誤答には、先ほどの be 動詞のミスと同様、文末の last Sunday (先週の日曜日) に注目せず現在形で記入した生徒が10%、過去形 played と記入が必要な箇所に「She was tennis.」と be 動詞の過去形を記入した生徒が同じく10%いた。このようなミスをした生徒にたいしては、事前テストを返却する際、教師が添削し、間違いの理由を記入した。間違いがあった設問は、板書で文構造の説明をして一斉に確認をした。補足説明が必要な生徒は、休み時間に個別で指導を行った。検証後テ



図10 好きな有名人紹介ワークシート

表2 書く活動における評価(ワークシート)

★評価(AからCの中から1つに○をつける)★				
	A(3点)	B(2点)	C(1点)	
自己評価	有名人について、条件書や辞書で調べながら紹介文を書くことができた。	有名人について、分からない時は教えてもらいながら紹介文を書くことができた。	有名人について、分からない時は、予想して、紹介文を書くことができた。	/3
教師評価	A(3点) 文法など正しく、3行書くことができた。	B(2点) 2カ所以内のミスはあるが3行書くことができた。	C(1点) 3カ所以上ミスがある。または、3行書くことができていない。	D(0点) 1行も書くことができなかった。または未提出。

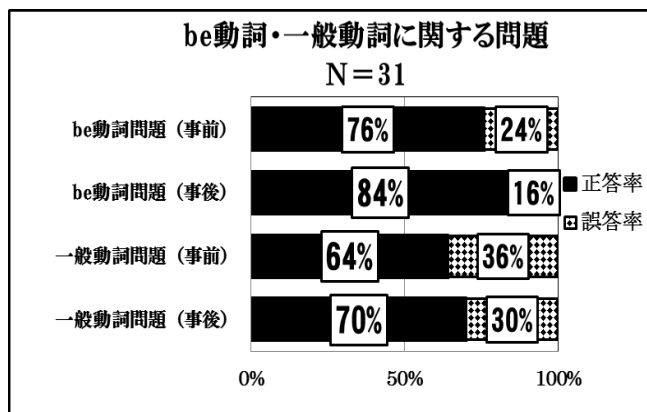


図11 be 動詞・一般動詞に関する問題

スト問題は、シェアハピ・リーディングの基本文からも出題したため、シェアハピ・リーディングの効果があったと考える。シェアハピ・リーディング活動を継続して行えば、正確な文構造と基本文の定着が図られると考える。

② 短作文問題

事前事後テストとも短作文問題として、自己紹介文を2行、友達紹介文を3行記述式問題として出題した(図12)。書くときの条件として、be動詞を使った文、一般動詞を使った文をそれぞれ1行ずつ記述させた。必ず、主語と動詞を入れた文にし、最後の1行は条件を与えず、生徒が自分で考えて記入させた。事前テストでは、特に間違いが多かった項目は、加算名詞の複数形と、3人称の動詞の変形のミスであった。事前テストにおいて、正答率は、それぞれの項目において、60%であった。事後テストでは、複数形の項目において27ポイント、3人称の項目においては33ポイント、それぞれ上昇がみられた。無答率は事前テストで19%、事後テストでは3%と16ポイント減少した。今回のテストは選択問題が少なく、ほとんどが記述式問題であったため、事前テストでは、記入に時間がかかり、最後の短文作文問題までたどりつけない生徒の様子が見られた。事後テストにおいては、記述式問題においても無答が減り、分かりやすい文章で簡潔に記入していた。生徒が今回の書く活動を通して、課題に取り組む意欲が高まったと考える。以上のことから、生徒が身近な話題の中から興味を持つ題材を設定し、書く活動に取り組めば、英文で書こうとする意欲が高まり、正しく書くことができたと思われる。

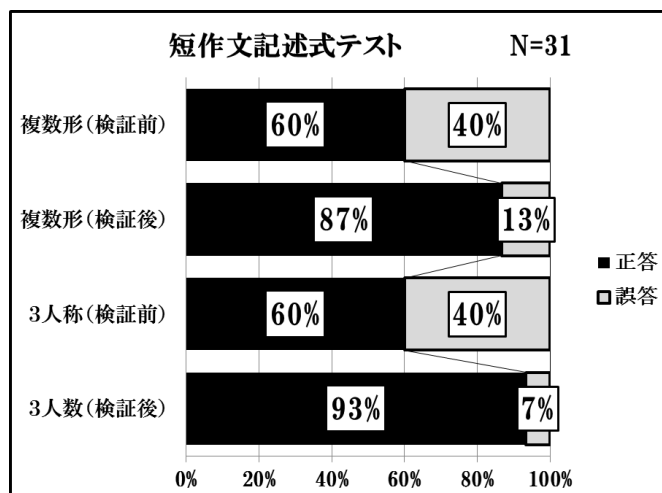


図12 短作文記述式テスト

IV 成果と課題

1 成果

- (1) シェアハピ・リーディング活動を行うことで、基本文を理解し、初歩的な文構造のミスが減少した。また、生徒同士がペアで間違いを指摘し合うことで、チェック機能が高まり、正しい文構造を身につけることができた。
- (2) 生徒が興味を持つテーマを設定し、書く課題に取り組ませることで、自分の考えや気持ちを正しい文構造で書いて相手に伝えることができた。

2 課題

- (1) 継続したシェアハピ・リーディングの活動とペア作りの工夫
- (2) 書く指導と3技能(聞く・話す・読む)のバランスのとれた内容の工夫
- (3) 短文記入からまとまりのある文へと段階的な書く指導とフィードバックの工夫
- (4) 既習事項の継続的な振り返り指導

〈参考文献〉

- 白畑知彦 2015 『英語指導における効果的な誤り訂正－第二言語習得の見地から』 大修館
藤村裕一 2015 『授業改善のための学習指導案』 厚徳社
日野奈津子 2014 『英語教師のためのコーチング入門』 明治図書
當作靖彦編 2013 『外国語学習のめやす』 公益財団法人国際文化フォーラム
横山吉樹・大塚謙二 2013 『英語教師のためのフォーカス・オン・フォーム入門』 明治図書
齋藤榮二 2011 『生徒の間違いを減らす英語指導法インテイク・リーディングのすすめ』 三省堂
宮 清子 2009 『英語で自己表現ワーク』 株式会社 mpi
瀧沢広人 2008 『生徒をひきつける授業の入り方・アイデア事典』 明治図書
齋藤榮二 2008 『自己表現力をつける英語の授業』 三省堂
文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂
柳瀬和明 2005 『日本語から考える英語表現の技術』 講談社
清川英男編 2003 『英語教師のための exel 活用法』 大修館書店
和田稔編 1990 『中学校外国語〈英語〉科』 明治図書

〈参考URL〉

- 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 2014 『特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」) 調査結果(中学校)』
[http:// www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_eigo_2/](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_eigo_2/)